決算書　整合性チェック表

書類間で一致すべき数字の突合

会社名		事業年度	
作成日		担当者	

金額を2つ入れると差額と判定が出ます。判定が「要確認」の行を先に潰します

突合する数字	書類A	金額A（円）	書類B	金額B（円）	差額	判定	差額の理由・対応
当期純利益	損益計算書		株主資本等変動計算書				
純資産合計	貸借対照表		株主資本等変動計算書（期末残高）				
資本金	貸借対照表		株主資本等変動計算書（期末残高）				
繰越利益剰余金	貸借対照表		前期末24,630,000＋当期純利益−配当1,000,000				
現金及び預金	貸借対照表		残高証明書の合計				
借入金（長期＋短期）	貸借対照表		返済予定表の期末残高				
棚卸資産	貸借対照表		実地棚卸表の評価額				
当期製品製造原価	製造原価報告書		損益計算書				
当期利益	法人税申告書 別表四		損益計算書の当期純利益				
期首利益積立金額	別表五(一)		前期の別表五(一) 期末				

別表五(一)の期末利益積立金額は、税務調整の累計があるため会計上の利益剰余金とは一致しないのが通常です。一致を確かめるのは「別表四の当期利益＝損益計算書の当期純利益」と「別表五(一)の期首＝前期の期末」の2点にとどめ、差額は調整項目で説明できるかを確認します。

差額が出た行は、金額を直す前に「どちらの書類が正しいか」を決めてから修正します。修正したら、この表の金額も入れ直して判定が○になることを確かめてください。

テンプレート提供：士業AI（shigyo-ai.com）